

『光る君へ6』

有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする

だいにのさんみ
大貳三位

【現代訳】

有馬山のふもとにある猪名の笹原に風が吹くと、笹の葉がそよそよと音をたてます。その音のように、どうして私があなたを忘れてしまうのでしょうか。

この和歌の作者は、西暦 1,000 年ごろに生まれた平安中期の女流歌人、大貳三位です。父は、藤原宣孝^{のぶたか}。母は、有名な紫式部。本名は藤原賢子^{かたこ}です。大貳三位とは、夫・高階成章^{たかしなのなりあき}の官職が、太宰大貳で大宰府のナンバー 2 の役職であったこと。また、賢子が女官として後冷泉天皇^{ごれいぜん}の乳母を任され、後に、天皇即位の際に従三位をいただいたこと。これら 2 つの官職・位階を組み合わせたものです。

父は、賢子が生まれて幼くして、病で急死しています。NHK の大河ドラマでは、賢子の幼少期は、母は宮仕えをしていて母のぬくもりを感じる時間が少なかつたように描かれています。しかし、賢子は、若くして一条天皇の中宮^{しょうし}彰子（藤原道長の娘）に仕え、そのうち貴公子たちとの恋も経験してゆきます。また結婚して、初め藤原兼隆^{かねたか}の妻、のちに高階成章の妻となります。それぞれ、子を授かっています。80 歳を超えて長寿を全うし、幸せな人生を送ったようです。

山陽小野田かるた協会 松永 進